

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について  
(予報第6号(10月))

標記について、次のとおり発表します。

《10月の病虫害発生予報》

<果樹類>

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
みかん		黒点病			
		そうか病			
			かいよう病		
		ミカンハダニ			
		アブラムシ類			
もも	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
果樹類 全般			果樹カメムシ類		

<野菜類>

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い	
なす		褐紋病				
		ミカンキイロ アザミウマ				
きゅうり		うどんこ病				
						炭そ病・褐斑病
		べと病				
		ミナミキイロアザミウマ				
		ワタヘリクロノメイ ガ				
		コナジラミ類				
トマト			葉かび病・すすかび病			
			コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病			
(キヤベツ・ あぐりな科野菜 しろな等)			コナガ			
			ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)			

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き類全般 野菜類			アブラムシ類・ウイルス病害			
			ハダニ類			
				ハスモンヨトウ		
			オオタバコガ			シロイチモジヨトウ
				ハモグリバエ類		

《今月のトピックス》

【もも】クビアカツヤカミキリ対策の技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を作成しました。防除の参考にしてください。 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/color.html>



【野菜類全般】シロイチモジヨトウが、キャベツ・施設きゅうり・花き類などで増加しています。注意深くほ場を観察し、発生を確認したら防除を行いましょう。なお、ジアミド系殺虫剤(プレバソン、フェニックス、ベリマーク、ベネビアなど)は連用せず、他の系統の薬剤とのローテーション散布を心がけましょう。

■発生が平年より多く見られる病害虫

【きゅうり】 炭そ病・褐斑病、ミナミキイロアザミウマ、コナジラミ類

【野菜類・花き類】 シロイチモジヨトウ

■現在、発生は平年並だが、今後の発生に注意が必要な病害虫

【きゅうり】 べと病（天候不順が続く可能性）

《（参考）9月の気象予報》（大阪管区气象台9月27日発表）

気温	低い（20%）	平年並（30%）	高い（50%）
降水量	少ない（10%）	平年並（30%）	多い（60%）
日照時間	少ない（40%）	平年並（40%）	多い（20%）

## A 果樹

### 1 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒点病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は少なかった。</li> <li>・10月の降水量は多いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝染源となる枯枝を除去する。</li> <li>・<u>収穫前日数が2週間以上必要な薬剤が多いため、散布前に必ず収穫前日数を確認する。</u></li> </ul>
そうか病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・10月の降水量は多いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場内の排水、通風を良くする。</li> <li>・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。</li> </ul>
かいよう病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少ない～並であった。</li> <li>・10月の降水量は多いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場内の排水、通風を良くする。</li> <li>・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。</li> </ul>
ミカンハダニ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少ない～並であった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・ミカンサビダニの発生が見込まれるほ場では、ミカンサビダニにも効果のある剤を使用する。</li> </ul>
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であったが、一部地域では発生が多かった。</li> <li>・黄色水盤への誘殺虫数は、やや少なかった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

### 2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部地域において被害が確認されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生が確認されていない地域でも発生に注意し、ほ場をよく見回る。</li> <li>・6月～8月に成虫が羽化する。幼虫は4月～10月頃にかけてフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物でうどん状に固まる）を排出する。</li> <li>・うどん状のフラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入するか、針金で幼虫を突き刺し殺虫する。</li> </ul> <p><u>※詳しくは技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照。</u>  <a href="http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/color.html">http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/color.html</a></p>

### 3 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。</li> </ul>

## B 野菜類

### 1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
褐紋病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>10月の降水量は多いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多雨により、まん延しやすい。</li> <li>ほ場内の排水を良好にし、窒素質肥料が過用とならないよう注意する。</li> <li>胞子の飛散により発生が拡大するので、発病した葉や果実、枝は直ちにほ場外へ持ち出して処分する。</li> </ul> <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>種子伝染するので、自家採種を行う場合は十分に注意する。</li> </ul>
ミカンキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期防除を徹底する。</li> <li>同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニル袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。</li> <li>ほ場周辺の除草に努める。</li> </ul> <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物にトマト黄化えそウイルス(TSWV)を媒介する。</li> </ul>

### 2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>10月の日照時間は平年並か少ないと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。</li> <li>発生初期の防除を徹底する。</li> <li>草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。</li> <li>QoI 剤(アミスター20フロアブル、フリントフロアブル25など)の連用は避ける。</li> </ul> <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。</li> <li>ブルームレス台木では、うどんこ病が発生しやすい。</li> </ul>

炭そ病・ 褐斑病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや多かった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>台風通過後にまん延する傾向がある。</b></li> <li>・ハウス内の過湿を避ける。</li> <li>・窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料の過用に注意する。</li> <li>・QoI 剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルなど)の連用は避ける。</li> </ul>
べと病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、一晩で病気がまん延することがあるので、天気予報に注意すること。</li> <li>・ハウス内の過湿を避ける</li> <li>・肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。</li> <li>・QoI 剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、ホライズンドライブフロアブル)の連用は避ける。</li> </ul>
ミナミキイ ロアザミウ マ	並 ～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。特に、赤色ネット(0.8mm 目合)による侵入防止効果は高い。</li> </ul>
ワタヘリクロ ノメイガ(ウリ ノメイガ)	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスの開口部をネット等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・食害株の幼虫を捕殺する。</li> </ul> <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス抑制栽培の定植直後に発生が認められることが多い。</li> </ul>
コナジラミ類	並 ～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期の防除に努める。</li> <li>・被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。</li> <li>・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・ほ場周辺の除草に努める。</li> </ul>

### 3 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設栽培では換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。</li> <li>・下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
コナジラミ類 ・ トマト黄化葉 巻病	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、コナジラミ類の発生は平年並で、トマト黄化葉巻病の発生は少なかった。</li> <li>・施設トマトの黄色粘着トラップによる誘殺虫数は、やや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コナジラミ類の発生初期の防除に努める。</li> <li>・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、コナジラミ類成虫の侵入を防止する。ほ場周辺の除草に努める。</li> <li>・コナジラミ類の防除は、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・トマト黄化葉巻病に感染すると、治療薬はないので感染株はすぐに処分する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)を媒介する。</li> </ul>

### 4 あぶらな科野菜 (キャベツ・しろな等)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナガ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェロモントラップ、予察灯での誘殺虫数は平年並であった。</li> <li>・巡回調査では、平年並の発生であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、薬剤抵抗性の系統が増加している。</li> <li>・発生初期に防除を行う。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 特にジアミド系薬剤の連用は避ける。</li> </ul>
ハイマダラノ メイガ (ダイコンシ ンクイ)	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予察灯での誘殺虫数は、やや少ない～平年並であった。</li> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。</li> <li>・セル成型苗で発生すると欠株を生じるので、発生初期の防除を徹底する。</li> </ul>

C 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類・ウイルス病害	やや少ない～並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・黄色水盤による誘殺虫数はやや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場周辺の除草に努める。</li> <li>・発生初期の防除を徹底する。</li> <li>・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。</li> <li>・ウイルス病害が発病した株は、まん延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アブラムシ類が媒介するウイルス病害には、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。</li> </ul>
ハダニ類	やや少ない～並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期の防除を徹底する。</li> <li>・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。</li> <li>・卵～成虫の各ステージに応じた薬剤を選定する。</li> </ul>
ハスモンヨトウ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・フェロモントラップによる誘殺虫数はやや少ない～平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。</li> <li>・施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。</li> <li>※夜間に強い光を受けると、きくは開花しない。また、ほうれんそうは抽苔(とうだち)する。周辺にこのような作物がある場合は黄色灯の設置方向に注意すること。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
シロイチモジヨトウ	多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、キャベツ・施設きゅうりでの発生は多かった。</li> <li>・フェロモントラップによる誘殺虫数は多かった。</li> <li>・花き類(けいとう)で多発しているとの情報があった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。</li> <li>・施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。</li> <li>※夜間に強い光を受けると、きくは開花しない。また、ほうれんそうは抽苔(とうだち)する。周辺にこのような作物がある場合は黄色灯の設置方向に注意すること。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

オオタバコガ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フェロモントラップへの誘殺虫数はやや少なかった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発生予測モデルでは、本年第4世代の発生(羽化)ピークは10月中旬と推定される。従って防除適期はその7～10日後の10月下旬である。</li> <li>発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。</li> <li>施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
ハモグリバエ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、発生は平年並であった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハウスの開口部をネット等(1mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> </ul>

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

最新の防除指針を掲載しています。



●病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailemailservice/mailemailservicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。



●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。



●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)

